

実践事例

学年	3年	
教科名	国語科	
単元名	気になる記号	
指導計画 (全14時間)	1	身の回りにある記号、知っている記号について話し合い、学習計画を立てる
	2	材料を集めて取材カードに書き、集めた記号の中から二つを選ぶ
	3	
	4	選んだカードを観点を立てて分析する
	5	例文を読み、報告する文章の特徴について話し合う
	6	文章の組み立てを考えて構成表を作る
	7	
	8	構成表をもとに下書きをし、読み合って修正する
	9	
	10	
	11	清書をする
	12	報告する文章を読み合い感想や意見を伝える
	13	
	14	単元の学習を振り返る
本時の目標	身の回りにある記号を集める方法について考え、必要な材料を集めて取材カードに書くことができる。	
防災の視点(※)	(B)町にある気になる記号を調べさせることで防災に関する記号があることに気づかせる。	

本時の展開(2/14)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。	○気になる記号が見つかったらカードに残しておくようにさせる。	● 海拔表示板や非常用出口などの写真
2. 取材カードの作り方を知る。	○校内で見つけた記号の写真をいくつか提示し、活動内容を意識させる。 ※児童用玄関横の海拔表示板の写真も入れて提示する。	
3. 学校内で取材を行う。	○集めた記号の中からみんなに知らせたいものを選ぶので、たくさん記号を集めさせる。	
4. 取材活動を続ける。	○学校内でできるだけたくさんの記号を見つけさせる。 ○家の中や通学路などでもできるだけ多くたくさんの記号を見つけさせる。	

実践事例

学年	3年	
教科名	国語科	
単元名	しりょうから分かる、小学生のこと	
指導計画 (全7時間)	1	学習の見通しを立てる。
	2	資料から分かることを考えてまとめて整理する。
	3	整理したことをもとに発表メモを作る。
	4	
	5	分かりやすい発表のしかたを考えて、工夫して発表する。
	6	
	7	発表を振り返る。
本時の目標	「阪神・淡路大震災のけがなどの原因について」のグラフから分かったことをすじ道を立ててまとめることができる。	
防災の視点(※)	(B)災害の被害に関する数字や表から災害について考えさせる。	

本時の展開(2/7)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。	○前時の学習をもとに本時の学習内容を確認する。	●「阪神・淡路大震災のけがなどの原因について」の資料(明日を生きる高学年版より)
2. 資料から分かることをグループで話し合う。	○グループでグラフから分かることを見つけ合うことで、自分では気づかなかったことや色々な意見を知る。	
3. 資料から読み取れる情報をたくさん見つける。	○付箋に見つけたことを書く。 ※「阪神・淡路大震災のけがなどの原因について」のグラフを提示する。	
4. みつけたことを内容を整理する。	○内容を見て、似たものを集めていく。	

実践事例

学年	3年	
教科名	社会科	
単元名	わたしたちのまちのようす	
指導計画 (全10時間)	1	屋上に上がって、見えたものをスケッチする
	2	
	3	見えたものを発表し、絵地図にまとめる
	4	見えなかった所についても知っていることを発表し、絵地図にまとめる。
	5	まちたんけんの計画を立てる
	6	まちたんけんに出かける
	7	絵地図を整理し、地図に表す
	8	
	9	地図を見て話し合う
	10	振り返る
本時の目標	これまでの学習を地図にまとめ、まちの様子について話し合うことにより、自分たちのまちの特色について自分の考えを深めることができる。	
防災の視点(※)	(B)まちの様子を話し合うことで、福良の土地の利用の仕方を知り、避難の際に役立つ知識を得る。	

本時の展開(9/10)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 完成した地図と絵地図を比べて気づいたことを話し合う。	○地図記号や住宅地、商業地の分布を色で表したことで土地の様子が分かりやすくなったことをとらえさせる。	●地図と絵地図
2. 福良のまちの様子について考える。	○まちの特徴についてとらえさせる。 ・住宅が多い場所 ・道路の様子 ・店が多いところ ・土地の高低 ・古い建物が残っている地域 ※土地の高低、住宅の混み具合、道路の様子などまとめたことから、避難所などの場所についてもふれておく。	
3. 福良よりさらに広い地域に関心を持つ。	○学校のまわりからさらに遠い地域の様子に関心をもたせる。	

実践事例

学年	3年	
教科名	社会科	
単元名	店ではたらく人びとの仕事	
指導計画 (全13時間)	1・2	わたしたちのまちには、どんな店があるのだろう
	3・4	家の人がよく買い物をするのは、どんな店なのだろう
		店の売り場には、どんな工夫があるのだろう
	5・6・7	見学の計画をたてよう
	6・7・8	スーパーマーケットの売り場は、どんな様子なのだろう
	9・10・11	お客さんに来てもらうために、どんなことをしていたのだろう
	12・13	お店のキャッチコピーを考えよう
本時の目標	買い物客を集めるためにどんな工夫をしているのかを予想し、計画を立てることができる。	
防災の視点(※)	(B)スーパーマーケットに、災害用の非常食や防災用品になるものが販売されていることに気づく。	

本時の展開(4/13)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. スーパーマーケットでは、どのようにしてお客さんを集めているかを予想する。	○あとでグループ分けがしやすいように、予想したことを付箋に書く。	●計画用のワークシート
2. 予想したことを話し合い、内容でグループ分けする。	○班で話し合い、付箋を操作して、内容が似ている予想を分けていく。	
3. スーパーマーケットに見学に行く計画を立てる。	※グループ分けをする際に、非常食や防災用品に生かせることがあるかも見学の内容に入れるように声をかける。	

実践事例

学年	3年	
教科名	社会科	
単元名	昔の道具と人びとの暮らし	
指導計画 (全10時間)	1	学習計画を立てる。
	2	グループで昔の道具の使い方について調べる。
	3	
	4	
	5	
	6	調べたことを発表する。
	7	北淡歴史民俗資料館で体験学習を行う。
	8	
	9	七輪の使い方を知る。
	10	振り返る。
本時の目標	昔の道具(七輪)の使い方について体験を通して知る。	
防災の視点(※)	(B)昔の道具の使い方を調べることにより、災害時に昔の道具を使えることに気づかせる。	

本時の展開(9/10)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 使用方法を確認する。	○七輪の使い方や実際に見て、七輪のつくりがどのようになっているかを確認させる。	●七輪 ●炭、チャッカマン
2. グループで火をおこして餅を焼く。	○炭に火がつかないときには着火剤をつけて支援をする。 ○使いながら毎日火をつけないと料理などができない昔の暮らしの大変さにふれる。	
3. 使い方について振り返る。	○学校のまわりからさらに遠い地域の様子に関心をもたせる。	

実践事例

学年	3年	
教科名	算数科	
単元名	時刻と時間のもとのめ方	
指導計画 (全4時間)	1	時刻と時間のもとのめ方
	2	
	3	短い時間
	4	まとめ
本時の目標	ある時刻から一定時間前の時刻や時間、時間の和を求めることができる。	
防災の視点(※)	(B)問題を津波の到達時間にすることにより災害のことについてもふれる。	

本時の展開(2/4)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 時刻と時間について振り返る。 朝の会の始まる時刻は何時何分か。 朝の会が行われている時間は何分か。</p> <p>2. 地震の発生時刻から福良の津波到達時刻を考え、発表する。</p> <p>3. 適応問題に取り組む。</p>	<p>○児童の生活時間を振り返り。時刻と時間の違いを確認させる。</p> <p>※針のない時計盤と数直線を提示し、地震発生時刻と福良到達までかかる時間58分を書き込ませ、福良の津波到達時刻を考えさせる。</p> <p>○発表するときには、時計盤や数直線を示しながら説明させる。</p> <p>○時計や数直線を使いながら、時刻や時間の求め方の習熟をはからせる。</p>	<p>●津波到達時間が記載されたハザードマップ</p>

実践事例

学年	3年	
教科名	理科	
単元名	風やゴムのはたらき	
指導計画 (全8時間)	1・2	風やゴムのはたらき
	3・4	風の力を調べよう
	5・6・7	ゴムの力を調べよう
	8	まとめよう
本時の目標	風やゴムの力をはたらかせたときの現象に興味関心をもち、進んで調べようとする。	
防災の視点(※)	(B)風の力を調べる導入において自然現象で起こる風についてふれ、課題づくりにつなげる。	

本時の展開(1/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 風やゴムで遊んだことを思い出してみよう。	<p>※日常生活の中での体験も膨らませ、自然事象への関心を高める。</p> <p>○思い出したことをもとに、風やゴムについて話し合いをさせる。</p>	●帆付模型車
2. 風で動かそうなものを考えよう。	<p>○いろんな発想で自由に考えさせる。</p> <p>○考えたものを発表させる。</p>	
3. 「帆」をつけた車をつくって風で走らせてみよう。	○帆の形や大きさなど、子ども自身が工夫できるように用意しておく。	

実践事例

学年	3年	
教科名	理科	
単元名	電気に明かりをつけよう	
指導計画 (全6時間)	1	街の明かりの写真を見て、気づいたことや疑問に思ったことを話し合おう。
	2・3	豆電球に明かりがつくのは、どんなつなぎ方のときだろうか。
	4・5	離れた導線の間、何をはさむと明かりがつくのだろうか。
	6	学習して大切なことを振り返ってまとめよう。
本時の目標	生活の中から電気の明かりについて興味・関心をもたせる。	
防災の視点(※)	(B)単元の導入時に、身の回りのどんなところで電気が使われているかを思い出し、被災時の明かりについてもふれる。	

本時の展開(1/6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. これまでの生活を思い出し、問題に答える。	○身の回りのどんな所で電気の明かりが使われているかについて答えさせる。 ○懐中電灯の電池を外すと明かりはつくかについて答えさせる。 ※被災時に、乾電池などを使って停電時にも明かりが使えることにふれる。	●わくわく理科プラス ●懐中電灯
2. 写真を見て、自分の考えを自由に書く。	○電灯の明かりをつけるのに必要なものを考えさせる。 ○木は電気を通すか考えさせる。 ○電気を通すものには、どんなものがあるか考えさせる。	
3. 考えたことを話しあう。	○多様な考えを認め、これからの学習を通して調べていこうと促す。	

第3学年1組 道徳科学習指導案

第3学年1組 32名

授業者 沼田 真千子

- 1 主題名 相手を思いやる心 B-(6) 親切, 思いやり
- 2 ねらい 困っている人の気持ちになって手助けをすることができた「ぼく」の気持ちを考えることを通して、相手の気持ちや立場を想像し、進んで親切にしようとする道徳的心情を育てる。

3 防災の視点 (※)

スーパーでのミネラルウォーターをめぐる出来事を示した教材を通して、災害にあった人の気持ちや立場になって考え、親切にしようとする態度を育てる。(B)

- 4 教材名 「スーパーの店先で」(出典:彩の国の道徳「心の絆」)

5 主題設定の理由

【道徳的価値について】

他者と関わりながら生きていく上で、自分のことばかりを考えていては望ましい人間関係を築くことはできない。相手の立場や気持ちを考えながら行動できることが大切である。特に、困っている人や助けを必要としている人に対して、その気持ちを思いやり、親切な行いをしようとする態度は、より豊かな人間関係を構築する上で重要である。しかし、相手のために行動したいと思っても、恥ずかしさや迷いから行動できないこともある。このようなとき、行動に踏み出す支えとなるのが思いやりの気持ちである。相手の状況をしっかりと見つめ、自分のこととして置き換えて考えることで相手の気持ちが想像でき、恥ずかしさや迷いを乗り越えることができる。さらに、相手のことを思いやって行動したことに対して、相手が喜ぶ様子を感じ取ることで、自らも充足感を味わうことができると考える。

【児童の実態】

本学級の児童は、人に対して優しく、親切に行動しようとする児童が多い。困っている友だちがいたり、声かけしたり手助けしたりしようとする姿が見られる。しかし、親切にする対象が身近な人に限られていたり、親切にするつもりで行動したことが、相手の気持ちをくみ取るまでにはいたっていなかったりすることも多い。相手から「自分でしようと思っていたのに。」「勝手にさわらないで。」などと言われてしまいトラブルになることもある。また、相手との関係性や自分自身のおかれた状況などによっては自己中心的な考え方や行動をしてしまう児童もいる。さらには、親切にしたい気持ちはあっても、どのような行動をすればよいのかわからない児童もいる。自分で考えて行動する力はまだ十分には育っていない。

【教材について】

本教材は、東日本大震災の後、すぐに売り切れてしまうミネラルウォーターを買いに行った「ぼく」が、自分の買ったミネラルウォーターを他の人に譲るお話である。津波の被害を受けた親戚のために、少しでも多くの水を届けたいと、店の人に真剣に頼んでいる男の人の姿に心を動かされ、行動に移す「ぼく」の姿が描かれている。恥ずかしくて募金もできなかった「ぼく」の気持ちの変化について話し合うことを通して、相手を思いやることの大切さについて考えることのできる教材である。

【指導にあたって】

震災後の物が不足していた状況について説明を加えながら押さえる。販売数を制限せざるを得なかった店の人の立場や男の人の思いを整理しながら、「ぼく」の気持ちについて話し合えるようにする。母親に勧められた募金はできなかったが、男の人の立場や気持ちを理解したことで親切な行いができた「ぼく」に共感させたい。そして、人を思いやるということは、その相手だけでなく、自分にとっても喜びとなることに気づけるようにする。相手の立場や思いを大切にしようとする気持ちを育てることにつなげたい。

6 学習展開

学習活動		主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 防災の視点 (※)
導入	1. 写真を見て話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく長い行列だな。 ・何をかうために並んでいるのかな。 	○東日本大震災後、水や食料などを買い求めるためにできた行列の写真を見せ、教材への関心を高める。
展開	2. 教材を読み、「ぼく」の気持ちについて話し合う。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしくて募金ができなかったとき 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お母さんに募金を勧められたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが見ていて恥ずかしいな。 ・他にもしていない人がいる。 	○募金することへの恥ずかしさや戸惑いに共感させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・手にした二本のミネラルウォーターをじっと見つめているとき 	<div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>二本のミネラルウォーターをじっと見つめている「ぼく」は、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・あんなに落ち込んでいてかわいそうだな。 ・お母さんにたのまれているし、困ったな。 ・どうしたらいいんだろう。 ・ぼくの分をあげようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○男の人の思いや店の人の立場を整理しながら、「ぼく」の気持ちについて考えられるようにする。 ○募金ができなかった「ぼく」が、自分のミネラルウォーターを男の人にあげられたのはどうしてかと問うことにより、困っている人のために考えて行動できたことに気づかせる。 ※災害にあって困っている人の気持ちや立場を想像させ、自分にできることを考えたり、親切にしようとしたりする態度を育てる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も頭を下げて喜んでくれた男の人を見送っているとき 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>男の人を見送っている「ぼく」は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・あんなに喜んでもらえてうれしい。 ・いいことができてよかった。 ・これからもこんなことがしたいな。 	○自分の気持ちを伝えられた満足感や心が温かくなった様子を感じ取らせる。
終末	3. 本時の感想を書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今日の学習で思ったことや考えたことを書きましよう。</p> </div>	○困っている人に対して親切にした「ぼく」の行動に対して、自分の感想を書けるようにする。

7 評価

相手の気持ちや立場を想像し、進んで親切にしようとする大切さに気づくことができたか。